

心の鏡

東京女子学院中学校
東京女子学院高等学校

校 歌

その花の開くがごとく

心ばえ美わしく

集いよる芙蓉が丘

石神井の流れに沿いて

いにしえの関町に

新らしき風呼ぼう

わが学園 わが学園

その花の姿に寄せて

青春を香わしく

まどいする芙蓉が丘

少女子の理想を胸に

仰ぎ見る校塔に

新しき風呼ぼう

わが学園 わが学園

東京女子学院学院歌

若い春

喜び溢れてみんなで歌えば

歌えば そこまで降りてくる

青天井のふところに

おとめごころを預けよう

芙蓉が丘の若い春

のぞみの花々 手に手にかざせば

かざせば そこまで寄ってくる

そよそよ風のふところに

おとめごころを預けよう

芙蓉が丘の若い春

さざなみがさしひくように

花びらがふりかかるとように

うれしさを かなしさを

そっと揺らすたまゆら

第一基本調

—— 芳野に遊ぶ 藤井 竹外 ——
 —— 明治天皇御製 天 ——

—普通—	—やや強く—	—普通—	
ん駭に ^イ 吼ゆ ^ウ			
古	陵の松柏 ^ウ	みわたりたる 大空の	
あ	さみどり	す	
—普通—	—明朗—	—弱く—	
は			
山	寺—春を尋 ^ウ ぬれば ^ア の ^ガ が	る ^ウ 寂寥— こころ ともがな	
ひろきを	お		
—最も強く—	—や、強く—	—普通—	
雪の老僧 ^ウ			
眉	さみどり	に掃うを ^ウ やめ ^エ	
あ	時	みわたりたる 大空の	
	す		
—普通—	—明朗—	—強く—	—普通—
ん朝を ^ウ 説く ^ウ			
落	花 ^ア —深き処 ^ウ の ^ガ が	な ^コ ころ	ともがな
ひろきを	おのが	こ	

東京女子学院吟詠歌

坂本坦道

高揚^テ理想^ヲ女^コ鬘^ヲ開^ク

理想を高揚して女鬘を開く

明正^ニ心姿^ヲ婦道^ヲ培^フ

明正の心姿婦道を培ふ

朝^ニ詠^シ夕^ニ吟^シ頌^{スレバ}聖^ノ徳^ヲ

朝に詠じ夕に吟じて聖徳を頌すれば

芙蓉^ニ映^ス旭^ニ緑^ニ風^ニ回^ル

芙蓉旭に映えて緑風回る

逸 題

朱 子

少年易^ク老^イ学^ニ難^シ成^リ
未^ク覺^ズ池^ノ塘^ノ春^ノ草^ノ夢^ノ

一^ニ寸^ノ光^陰不^レ可^ク輕^シ
階^ノ前^ノ梧^ノ葉^ノ已^ニ秋^ノ聲^ノ

江 南 春

杜 牧

千^リ里^ノ鶯^ノ鳴^イ綠^映紅^ニ
南^朝四^百八^十寺^シ

水^村山^郭酒^旗風^ノ
多^少樓^台煙^雨中^ノ

勸 學

陶 淵 明

盛^年不^レ重^ク來^ラ
及^レ時^ニ當^ニ勉^メ勵^ス

一^日難^シ再^ビ晨^ニ
歲^月不^レ待^タ人^ヲ

山 行

杜 牧

遠^ク上^ニ寒^山石^徑斜^{ナリ}
停^レ車^ヲ坐^シ愛^ス楓^林晚^ク

白^雲生^{ズル}處^ニ有^リ人^家
霜^葉紅^ニ於^ニ二^月花^ニ

35

早發^ニ白帝城^一

李 白

朝^ニ辭^ス白帝彩雲間

千里江陵一日還^ル

兩岸猿声啼不^レ住^マ

輕舟已過^ニ万重山^ノ

36

貧 交 行

杜 甫

飜^{セバ}手^ヲ作^リ雲覆^レ手^ヲ雨

紛紛^{タル}輕薄何須^レ數^フ

君不^レ見^テ管鮑貧時^ノ交

此^ノ道今人棄^テ如^レ土^ノ

和 歌 ・ 道 歌

37

ふじねの高き心を常もたばふもとの塵にけがれざるべき

佐久良 東雄

38

なせば成るなさねばならぬ何事もならぬは人のなさぬなりけり

古 歌

39

十億の人に十億の母あるもわが母にまさる母あらめやも

暁 鳥 敏